

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-352274

(43) 公開日 平成4年(1992)12月7日

(51) Int.Cl.⁵
G 0 6 F 15/02

識別記号 庁内整理番号
3 3 5 E 9194-5L
3 5 5 Z 9194-5L

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平3-127696

(22) 出願日 平成3年(1991)5月30日

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 加藤 千悦治

大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社内

(72) 発明者 白石 奈緒樹

大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社内

(72) 発明者 羽田 勇

大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社内

(74) 代理人 弁理士 小森 久夫

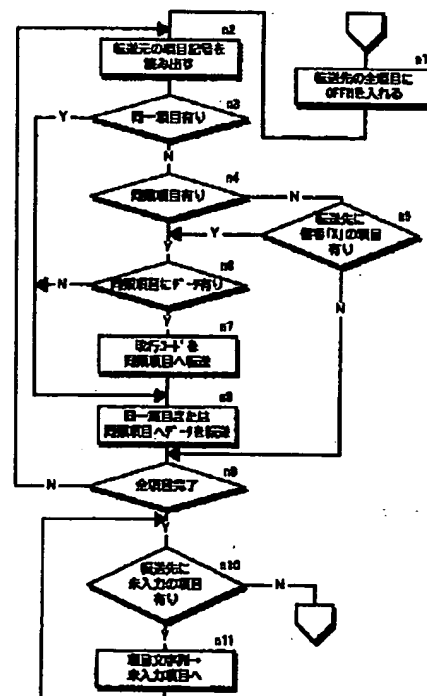
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 データ転送装置

(57) 【要約】

【目的】 アプリケーション間での項目別データの転送時に、整理された状態でデータの転送を行う。

【構成】 転送元のアプリケーションの項目名と、転送先のアプリケーションの項目名との一致または類似状態を比較する手段を備えるとともに、①転送される項目別データの項目名が、転送先のアプリケーションの項目名として存在しないとき、その項目別データを項目名が類似する項目欄に転送する手段、②転送される項目別データの項目名が、転送先のアプリケーションの項目名として存在するとき、その項目別データを項目名が一致する項目欄に転送する手段、③転送先のアプリケーションの項目名が、転送元のアプリケーションの項目名に存在しないとき、その転送先のアプリケーションの項目名にデータ無しを示す情報の書き込みを行う手段、を設けた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】名前、電話番号等の項目別のデータを備えるアプリケーションを複数種類備え、一つのアプリケーションが有する項目別データを他のアプリケーションの項目欄に転送するデータ転送装置であって、転送元のアプリケーションが備える項目名と、転送先のアプリケーションが備える項目名と、の一致または類似状態を比較する手段と、転送される項目別データの項目名が、転送先のアプリケーションの項目名として存在しないとき、その項目別データを項目名が類似する項目欄に転送する手段と、を設けたことを特徴とするデータ転送装置。

【請求項2】名前、電話番号等の項目別のデータを備えるアプリケーションを複数種類備え、一つのアプリケーションが有する項目別データを他のアプリケーションの項目欄に転送するデータ転送装置であって、転送元のアプリケーションが備える項目名と、転送先のアプリケーションが備える項目名と、の一致または類似状態を比較する手段と、転送される項目別データの項目名が、転送先のアプリケーションの項目名として存在するとき、その項目別データを項目名が一致する項目欄に転送する手段と、を設けたことを特徴とするデータ転送装置。

【請求項3】名前、電話番号等の項目別のデータを備えるアプリケーションを複数種類備え、一つのアプリケーションが有する項目別データを他のアプリケーションの項目欄に転送するデータ転送装置であって、転送元のアプリケーションが備える項目名と、転送先のアプリケーションが備える項目名と、の一致または類似状態を比較する手段と、転送先のアプリケーションの項目名が、転送元のアプリケーションの項目名に存在しないとき、その転送先のアプリケーションの項目名にデータ無しを示す情報の書き込みを行う手段と、を設けたことを特徴とするデータ転送装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、名前、電話番号等の項目別のデータを備えるアプリケーションを複数種類備える情報端末機において、アプリケーション間でのデータの転送処理を行うデータ転送装置の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】電子手帳等の情報端末機は複数種類のアプリケーションにより種々のデータを分類して記憶している。各アプリケーションは名前、電話番号等のいくつかの項目別データが記憶できるようになっているが、その項目の数および項目名（項目の種類）はアプリケーションによって異なっている。従来、電子手帳には各アプリケーションはアプリケーション間でデータ（項目別データ）の転送を行うデータ転送装置が備えられていた。例えば、名刺管理から電話帳へのデータの転送を行うことによって、データの入力の手間を省くことができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが従来のデータ転送装置では項目別データを転送するときに、転送元のアプリケーションの項目名と転送先のアプリケーションの項目名との対応がとられないため、転送されたデータが転送先のアプリケーションの空きスペースに記憶され、転送先においてデータの整理をし直さなければならなかった。

【0004】この発明の目的は、アプリケーション間での項目別データの転送時に、整理された状態でデータの転送を行うことのできるデータ転送装置を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】この出願の請求項1に係る発明は、名前、電話番号等の項目別のデータを備えるアプリケーションを複数種類備え、一つのアプリケーションが有する項目別データを他のアプリケーションの項目欄に転送するデータ転送装置であって、転送元のアプリケーションが備える項目名と、転送先のアプリケーションが備える項目名と、の一致または類似状態を比較する手段と、転送される項目別データの項目名が、転送先のアプリケーションの項目名として存在しないとき、その項目別データを項目名が類似する項目欄に転送する手段と、を設けたことを特徴とする。

【0006】この出願の請求項2に係る発明は、名前、電話番号等の項目別のデータを備えるアプリケーションを複数種類備え、一つのアプリケーションが有する項目別データを他のアプリケーションの項目欄に転送するデータ転送装置であって、転送元のアプリケーションが備える項目名と、転送先のアプリケーションが備える項目名と、の一致または類似状態を比較する手段と、転送される項目別データの項目名が、転送先のアプリケーションの項目名として存在するとき、その項目別データを項目名が一致する項目欄に転送する手段と、を設けたことを特徴とする。

【0007】この出願の請求項3に係る発明は、名前、電話番号等の項目別のデータを備えるアプリケーションを複数種類備え、一つのアプリケーションが有する項目別データを他のアプリケーションの項目欄に転送するデータ転送装置であって、転送元のアプリケーションが備える項目名と、転送先のアプリケーションが備える項目名と、の一致または類似状態を比較する手段と、転送先のアプリケーションの項目名が、転送元のアプリケーションの項目名に存在しないとき、その転送先のアプリケーションの項目名にデータ無しを示す情報の書き込みを行う手段と、を設けたことを特徴とする。

【0008】

【作用】この出願の請求項1に係る発明においては、一つのアプリケーションから他のアプリケーションに対してそのアプリケーションが有する項目別データを転送するとき、転送される項目別データの項目名が転送先のア

アプリケーションの項目名として存在しないときには類似する項目名の欄にデータが転送される。なお、項目名の一致または類似状態の比較は、予め各項目ごとにコードを付し、そのコードの比較によって判別を行うことが可能である。

【0009】また請求項2に係る発明においても請求項1の発明と同様にアプリケーション間での項目別データの転送時に転送データの項目名が転送先のアプリケーションの項目名と比較されて転送データの項目名と一致する項目名が転送先のアプリケーションに存在するときはその項目名の欄のデータが転送される。

【0010】さらに、請求項3に係る発明では転送先には存在するが転送元には存在しない項目名がある場合には転送先の項目名にはデータ無しを示す書き込みがされる。

【0011】

【実施例】図1はデータ転送装置を備える電子手帳のブロック図である。電子手帳の全体の制御はCPU1によって行われる。CPU1はROM2に記憶されたプログラムにしたがって動作制御する。このときRAM3はデータの記憶エリアおよびワークエリアとして用いられる。CPU1にはI/O4を介してキーボード5やその他の入出力装置が接続される。キーボード5等から入力されたデータはRAM3に記憶され、必要に応じて表示体6に表示される。なお、表示体6としては一般に液晶表示器が用いられ、表示用メモリ7に書き込まれた内容が表示体6に表示される。

【0012】図2～図5はこの電子手帳が有するアプリケーション例を示した図である。図2は電話帳のアプリケーション、図3は名刺のアプリケーション、図4はスケジュールのアプリケーション、図5はメモのアプリケーションを示している。各アプリケーションは項目名、項目記号、項目文字列の欄を有している。ここでは具体的に電話帳のアプリケーション（図2）を例に説明する。電話帳のアプリケーションは名前、名前の読み・備考の6個の項目名を有している。各項目名には項目記号が対応しており、上位の3～5文字は項目名に対応する記号で、下位の2文字（小数点以下の2文字）は項目の属性を示す記号である。この下位2文字の属性記号が他のアプリケーションとの項目名の一致、類似を判別するために用いられる。属性記号はその種類を示す記号と、その種類の中での分類を示す番号とで構成されている。例えば電話番号の場合、“C”がその種類を示し、“1”がその分類を示している。この属性記号はアプリケーションが変わっても同じであって、例えば名刺のアプリケーション（図3）の場合、電話番号の属性記号は同じく“C1”である。そして電話番号と類似するものとしてFAX番号が同種類で分類番号の違う“C2”で示されている。このように項目記号の下位2文字によって項目名の一致、類似、不一致を判別することができ

る。なお図2～図5のアプリケーション間において、同一項目名のものは、

①電話帳の「名前」と名刺管理の「氏名」；A1

②電話帳の「名前の読み」と名刺管理の「氏名の読み」；B1

③電話帳の「備考」と名刺管理の「備考」とスケジュールの「内容」とメモの「内容」；X1

また、同類項目は次のとおりである。

【0013】①電話帳の「電話番号」と名刺管理の「FAX番号」；C

②電話帳の「住所」と名刺管理の「会社名」、「所属」、「役職」；E

アプリケーション間で項目データの転送が行われるときにはこれらの同一項、同類項が比較されて同一項または同類項に対してデータの転送が行われる。なお、「X」はその他を示す記号であり、転送先に適当な項目名がない場合に「X」で示される欄にデータが転送される。

【0014】各項目名に対応するデータ、すなわち名前、名前の読み等は項目文字列に記憶される。項目文字列にはデータとともに、データ無しを示すコード“0FF”、その項目におけるデータの終了を示すコード“00”、改行コード等が書き込まれる。これらのコードによってデータの有無、データの終了等を認識することができる。

【0015】図6～図8はデータの転送例を示した図である。図6は名刺管理から電話帳への転送例を示しており、名刺管理内の項目別データは電話帳の同一項目または同類項目の欄に転送される。なお「会社名の読み」は転送元には存在するが、転送先には同一項目、同類項目のいずれも無いため、備考欄に転送される。図7は電話帳からメモへの転送例を示しており、電話帳内の項目名に対応する項目名がメモのアプリケーションには全くないため、全ての項目データがメモ内容へと転送される。図8は電話帳から名刺管理への転送例を示しており、電話帳内の項目データは全て名刺管理の対応する項目名の欄に転送されるが、名刺管理のアプリケーションは転送元である電話帳には無い項目名の欄を多数備えており（FAX番号、会社名等）、これらの項目にはデータが無いことを示す文字列が記憶される。

【0016】図9はデータ転送の処理手順を示したフローチャートである。

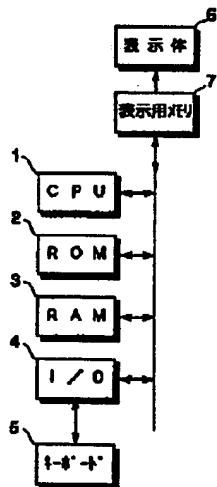
【0017】まず転送開始前に転送先の全ての項目の項目文字列に“0FF”を書き込む（n1）。そして転送元の項目記号を順番に読み出して、転送先に同一の項目名があるかどうかを見る（n2→n3）。同一項目名があれば、その項目別データを対応する同一項目の項目文字列の欄へ転送し、転送元に項目が残っていれば次の項目記号の読み出しを行う（n8→n9→n2）。また、転送元の項目名が転送先に存在せず同類項目がある場合、例えば名刺管理から電話帳に転送する場合の名刺

管理のFAX番号に対する電話帳の電話番号の場合には、転送先の同類項目の欄のデータ記憶状態が確認されてからデータの転送が行われる(n4→n6)。転送先の項目文字列の欄の先頭の文字が“0FF”である場合は転送先にデータが無い状態であるから、そのまま項目別データの転送が行われる。しかし、転送先の項目文字列の欄の最後の文字が“00”である場合には転送先に既にデータが記憶されている状態であるから、まず“00”が書き込まれている位置に改行コードを転送し、これによって改行を行った後項目別データの転送を行う(n6→n7→n8)。さらに転送先に、転送元の項目と同一、同類のいずれの項目も無い場合には、転送先の備考欄にその項目データを転送する(n4→n5→n6・・・)。このときの転送方法は同類項の転送方法と同じである。なお転送先に備考欄がないときにはその項目データ転送せずに次の項目へと移る。

【0018】以上のようにして転送元の全ての項目について処理が終了すると、転送先に未入力項目欄がないかどうかを判別する(n10)。この判別は“0FF”が書き込まれている項目文字列が存在するかどうかで行われ、“0FF”が存在する場合にはその項目文字列に「対応データ無し」等の文字列が転送される。

【0019】

【図1】



【図4】

項目名	項目記号	項目文字列
開始時刻	START.G1	(文字列)
終了時刻	ENDT.H1	(文字列)
内容	MEMO.X1	(文字列)
アラーム時刻	ALARM.IT	(文字列)

【図2】

項目名	項目記号	項目文字列
名前	NAME.A1	(文字列)
名前の読み	NYOMI.B1	(文字列)
電話番号	TEL.C1	(文字列)
郵便番号	YUUB.D1	(文字列)
住所	ADDR.E1	(文字列)
備考	BIKOU.X1	(文字列)

【図5】

項目名	項目記号	項目文字列
メモ内容	MEMO.X1	(文字列)
分類コード	BCODE.J1	(文字列)
分類名	BNAME.K1	(文字列)

【発明の効果】この発明によれば、アプリケーション間で項目別データの転送を行う場合に転送元の項目名と転送先の項目名との対応がとられるため整理された状態で項目別データが転送され、転送後の整理の手間を省くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】データ転送装置を備える電子手帳のブロック図

【図2】アプリケーションの一つである電話帳の構成を示した図

【図3】アプリケーションの一つである名刺管理の構成を示した図

【図4】アプリケーションの一つであるスケジュールの構成を示した図

【図5】アプリケーションの一つであるメモの構成を示した図

【図6】名刺管理から電話帳への項目別データの転送例を示した図

【図7】電話帳2からメモへの項目別データの転送例を示した図

【図8】電話帳から名刺管理への項目別データの転送例を示した図

【図9】項目別データの転送処理手順を示したフローチャート

【図3】

項目名	項目記号	項目文字列
氏名	NAME.A1	(文字列)
氏名の読み	NYOMI.B1	(文字列)
電話番号	TEL.C1	(文字列)
FAX番号	TEL.C2	(文字列)
郵便番号	YUUB.D1	(文字列)
住所	ADDR.E1	(文字列)
会社名	ADDR.E2	(文字列)
会社名の読み	CVOMI.F1	(文字列)
所属	ADDR.E3	(文字列)
役職	ADDR.E4	(文字列)
備考	BIKOU.X1	(文字列)

【図6】

名刺管理(転送元)	電話(転送先)
氏名	名前
氏名の読み	名前の読み
電話番号	電話番号
FAX番号	
郵便番号	郵便番号
住所	住所
会社名	
所属	
役職	
会社名の読み	備考
備考	

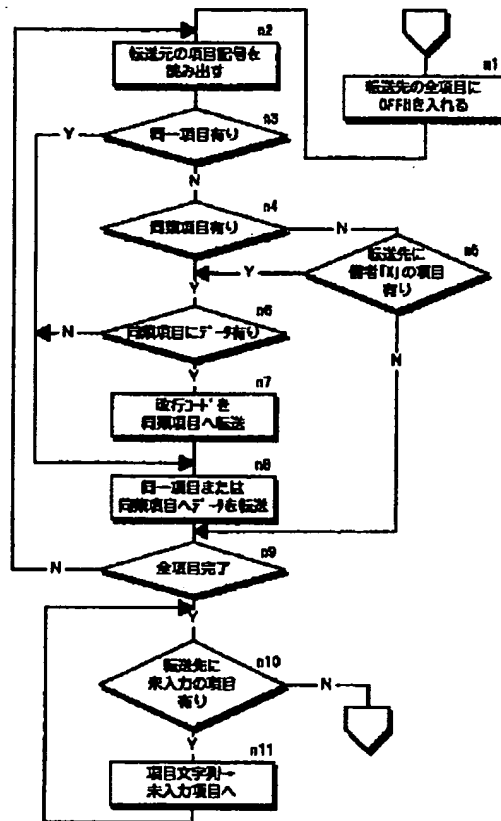
【図7】

電話（転送元）	メモ（転送先）
名前	メモ内容
名前の読み	
電話番号	
郵便番号	
住所	
備考	

【図8】

電話帳（転送元）	名前管理（転送先）
名前	氏名
名前の読み	氏名の読み
電話番号	電話番号
郵便番号	郵便番号
住所	住所
備考	備考
	(FAX番号の文字列)→FAX番号
	(会社名の文字列)→会社名
	(会社名の読みの文字列)→会社名の読み
	(所属の文字列)→所属
	(役職の文字列)→役職

【図9】



フロントページの続き

(72)発明者 森田 彰高
 大阪市阿倍野区長池町22番22号 シヤープ
 株式会社内
 (72)発明者 飯田 麻己
 大阪市阿倍野区長池町22番22号 シヤープ
 株式会社内

(72)発明者 田中 康晴
 大阪市阿倍野区長池町22番22号 シヤープ
 株式会社内
 (72)発明者 松田 榮睦
 大阪市阿倍野区長池町22番22号 シヤープ
 株式会社内

(6)

特開平4-352274

(72)発明者 竹中 稔洋
大阪市阿倍野区長池町22番22号 シヤープ
株式会社内

○

○

[0015] Figure 6 to 8 presents data transfer examples. For instance, figure 6 shows a data transfer example from the name card manager to the phone book. Itemized data within the name card manager is transferred to the same or similar items of the phone book respectively. In addition, since the item of "company's name reading" exists at the transfer source but it does not exist at the transfer's destination end, it is transferred to an item of Remarks. Figure 7 demonstrates a data transfer example from a phone book to a memo application. In this case, since the memo application does not have any items' names corresponding to items' name in the phone book, all items are transferred to the memo information. Figure 8 provides a transfer example from the phone book to the name card manager. In this case, all items in the phone book are transferred to the corresponding items of the name card manager. However, as shown by figure 8, the name card manager has plural items which do not exist in the phone book (Fax number, company's name, etc.), a text string indicating empty is stored in these items.

THIS PAGE BLANK (USPTO)

Figure 6

Name card Manager (transfer source)	Phone book (transfer destination)
Name	Name
Name reading	Name reading
Phone Number	Phone Number
Fax Number	
Zip Code	Zip Code
Address	Address
Company's Name	
Professional Affiliation	
Company's Position	
Company's name reading	Remarks
Remarks	

Figure 7

Phone book (transfer source)	Memo (transfer destination)
Name	Memo information
Name reading	
Phone Number	
Zip Code	
Address	
Remarks	

THIS PAGE BLANK (USPTO)

Figure 8

Phone Book (transfer source)	Name card Manager (transfer destination)
Name	Name
Name reading	Name reading
Phone Number	Phone Number
Zip Code	Zip Code
Address	Address
Remarks	Remarks
	(Text string of Fax Number)→ Fax Number
	(Text string of Company' s name)→ Company' s name
	(Text string of Company' s name reading)→ Company' s name reading
	(Text string of Professional affiliation)→ Professional affiliation
	(Text string of Company' s Position)→ Company' s Position

THIS PAGE BLANK (USPTO)

アプリケーションの項目名として存在しないときには類似する項目名の欄にデータが転送される。なお、項目名の一致または類似状態の比較は、予め各項目名ごとにコードを付し、そのコードの比較によって判別を行うことが可能である。

【0009】また請求項2に係る発明においても請求項1の発明と同様にアプリケーション間での項目別データの転送時に転送データの項目名が転送先のアプリケーションの項目名と比較されて転送データの項目名と一致する項目名が転送先のアプリケーションに存在するときはその項目名の欄のデータが転送される。

【0010】さらに、請求項3に係る発明では転送先には存在するが転送元には存在しない項目名がある場合には転送先の項目名にはデータ無しを示す書き込みがされる。

【0011】

【実施例】図1はデータ転送装置を備える電子手帳のブロック図である。電子手帳の全体の制御はCPU1によって行われる。CPU1はROM2に記憶されたプログラムにしたがって動作制御する。このときRAM3はデータの記憶エリアおよびワークエリアとして用いられる。CPU1にはI/O4を介してキーボード5やその他の入出力装置が接続される。キーボード5等から入力されたデータはRAM3に記憶され、必要に応じて表示体6に表示される。なお、表示体6としては一般に液晶表示器が用いられ、表示用メモリ7に書き込まれた内容が表示体6に表示される。

【0012】図2～図5はこの電子手帳が有するアプリケーション例を示した図である。図2は電話帳のアプリケーション、図3は名刺のアプリケーション、図4はスケジュールのアプリケーション、図5はメモのアプリケーションを示している。各アプリケーションは項目名、項目記号、項目文字列の欄を有している。ここでは具体的に電話帳のアプリケーション（図2）を例に説明する。電話帳のアプリケーションは名前、名前の読み、備考の6個の項目名を有している。各項目名には項目記号が対応しており、上位の3～5文字は項目名に対応する記号で、下位の2文字（小数点以下の2文字）は項目の属性を示す記号である。この下位2文字の属性記号が他のアプリケーションとの項目名の一致、類似を判別するために用いられる。属性記号はその種類を示す記号と、その種類の中での分類を示す番号とで構成されている。例えば電話番号の場合、“C”がその種類を示し、“1”がその分類を示している。この属性記号はアプリケーションが変わっても同じであって、例えば名刺のアプリケーション（図3）の場合、電話番号の属性記号は同じく“C1”である。そして電話番号と類似するものとしてFAX番号が同種類で分類番号の違う“C2”で示されている。このように項目記号の下位2文字によって項目名の一致、類似、不一致を判別することができ

る。なお図2～図5のアプリケーション間において、同一項目名のものは、

①電話帳の「名前」と名刺管理の「氏名」；A1

②電話帳の「名前の読み」と名刺管理の「氏名の読み」；B1

③電話帳の「備考」と名刺管理の「備考」とスケジュールの「内容」とメモの「内容」；X1

また、同類項目は次のとおりである。

【0013】①電話帳の「電話番号」と名刺管理の「FAX番号」；C

②電話帳の「住所」と名刺管理の「会社名」、「所属」、「役職」；E

アプリケーション間で項目データの転送が行われるときにはこれらの同一項、同類項が比較されて同一項または同類項に対してデータの転送が行われる。なお、「X」はその他を示す記号であり、転送先に適当な項目名がない場合に「X」で示される欄にデータが転送される。

【0014】各項目名に対応するデータ、すなわち名前、名前の読み等は項目文字列に記憶される。項目文字列にはデータとともに、データ無しを示すコード“0FF”、その項目におけるデータの終了を示すコード“00”、改行コード等が書き込まれる。これらのコードによってデータの有無、データの終了等を認識することができる。

【0015】図6～図8はデータの転送例を示した図である。図6は名刺管理から電話帳への転送例を示しており、名刺管理内の項目別データは電話帳の同一項目または同類項目の欄に転送される。なお「会社名の読み」は転送元には存在するが、転送先には同一項目、同類項目のいずれも無いため、備考欄に転送される。図7は電話帳からメモへの転送例を示しており、電話帳内の項目名に対応する項目名がメモのアプリケーションには全くないため、全ての項目データがメモ内容へと転送される。図8は電話帳から名刺管理への転送例を示しており、電話帳内の項目データは全て名刺管理の対応する項目名の欄に転送されるが、名刺管理のアプリケーションは転送元である電話帳には無い項目名の欄を多数備えており（FAX番号、会社名等）、これらの項目にはデータが無いことを示す文字列が記憶される。

【0016】図9はデータ転送の処理手順を示したフローチャートである。

【0017】まず転送開始前に転送先の全ての項目の項目文字列に“0FF”を書き込む（n1）。そして転送元の項目記号を順番に読み出して、転送先に同一の項目名があるかどうかを見る（n2→n3）。同一項目名があれば、その項目別データに対応する同一項目の項目文字列の欄へ転送し、転送元に項目が残っていれば次の項目記号の読み出しを行う（n8→n9→n2）。また、転送元の項目名が転送先に存在せず同類項目がある場合、例えば名刺管理から電話帳に転送する場合の名刺

THIS PAGE BLANK (USPTO)

5

管理のFAX番号に対する電話帳の電話番号の場合には、転送先の同類項目の欄のデータ記憶状態が確認されてからデータの転送が行われる(n4→n6)。転送先の項目文字列の欄の先頭の文字が“0FF”である場合は転送先にデータが無い状態であるから、そのまま項目別データの転送が行われる。しかし、転送先の項目文字列の欄の最後の文字が“00”である場合には転送先に既にデータが記憶されている状態であるから、まず“00”が書き込まれている位置に改行コードを転送し、これによって改行を行った後項目別データの転送を行う(n6→n7→n8)。さらに転送先に、転送元の項目と同一、同類のいずれの項目も無い場合には、転送先の備考欄にその項目データを転送する(n4→n5→n6・・・)。このときの転送方法は同類項の転送方法と同じである。なお転送先に備考欄がないときにはその項目データ転送せずに次の項目へと移る。

【0018】以上のようにして転送元の全ての項目について処理が終了すると、転送先に未入力の項目欄がないかどうかを判別する(n10)。この判別は“0FF”が書き込まれている項目文字列が存在するかどうかで行われ、“0FF”が存在する場合にはその項目文字列に「対応データ無し」等の文字列が転送される。

【0019】

【発明の効果】この発明によれば、アプリケーション間で項目別データの転送を行う場合に転送元の項目名と転送先の項目名との対応がとられるため整理された状態で項目別データが転送され、転送後の整理の手間を省くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】データ転送装置を備える電子手帳のブロック図

【図2】アプリケーションの一つである電話帳の構成を示した図

【図3】アプリケーションの一つである名刺管理の構成を示した図

【図4】アプリケーションの一つであるスケジュールの構成を示した図

【図5】アプリケーションの一つであるメモの構成を示した図

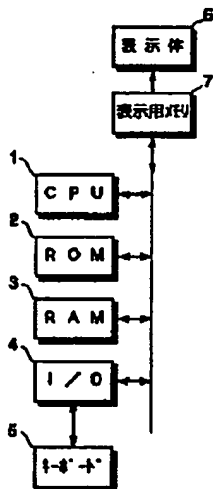
【図6】名刺管理から電話帳への項目別データの転送例を示した図

【図7】電話帳2からメモへの項目別データの転送例を示した図

【図8】電話帳から名刺管理への項目別データの転送例を示した図

【図9】項目別データの転送処理手順を示したフローチャート

【図1】



【図2】

項目名	項目記号	項目文字列
名前	NAME.A1	(文字列)
名前の読み	NYONI.B1	(文字列)
電話番号	TEL.C1	(文字列)
郵便番号	YUUB.D1	(文字列)
住所	ADDR.E1	(文字列)
備考	BIKOD.X1	(文字列)

【図3】

項目名	項目記号	項目文字列
氏名	NAME.A1	(文字列)
氏名の読み	NYONI.B1	(文字列)
電話番号	TEL.C1	(文字列)
FAX番号	TEL.C2	(文字列)
郵便番号	YUUB.D1	(文字列)
住所	ADDR.E1	(文字列)
会社名	ADDR.E2	(文字列)
会社名の読み	CYONI.F1	(文字列)
所属	ADDR.E3	(文字列)
役職	ADDR.E4	(文字列)
備考	BIKOD.X1	(文字列)

【図5】

項目名	項目記号	項目文字列
メモ内容	MEMO.X1	(文字列)
分類コード	BCODE.J1	(文字列)
分類名	BDAME.K1	(文字列)

【図6】

Figure 6

名刺管理(転送元)	電話(転送先)
氏名	名前
氏名の読み	名前の読み
電話番号	電話番号
FAX番号	
郵便番号	郵便番号
住所	住所
会社名	
所属	
役職	
会社名の読み	備考
備考	

【図4】

項目名	項目記号	項目文字列
開始時刻	START.G1	(文字列)
終了時刻	ENDT.H1	(文字列)
内容	MEMO.X1	(文字列)
アラーム時刻	ALARM.I1	(文字列)

THIS PAGE BLANK (USPTO)

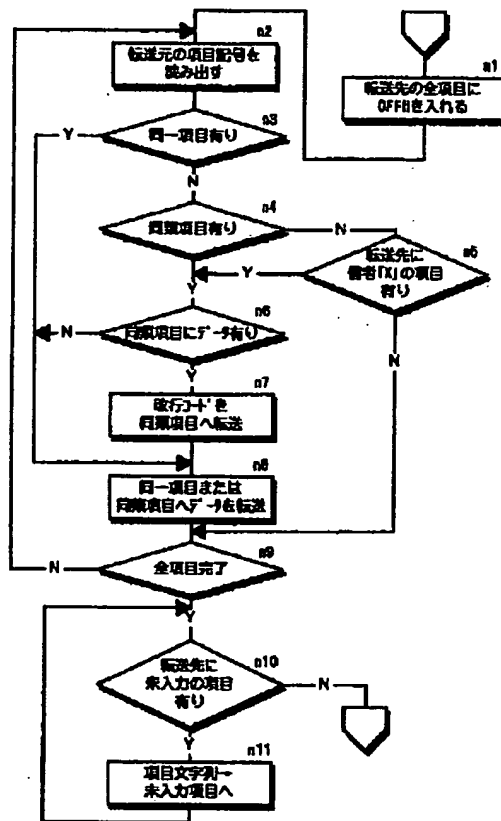
【図7】
Figure 7

電話（転送元）	メモ（転送先）
名前	メモ内容
名前の読み	
電話番号	
郵便番号	
住所	
備考	

【図8】
Figure 8

電話（転送元）	名前管理（転送先）
名前	氏名
名前の読み	氏名の読み
電話番号	電話番号
郵便番号	郵便番号
住所	住所
備考	備考
	(FAX番号の文字列)→FAX番号
	(会社名の文字列)→会社名
	(会社名の読みの文字列)→会社名の読み
	(所属の文字列)→所属
	(役職の文字列)→役職

【図9】



フロントページの続き

(72)発明者 森田 彰高
大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ
株式会社内

(72)発明者 飯田 麻己
大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ
株式会社内

(72)発明者 田中 康晴
大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ
株式会社内

(72)発明者 松田 栄睦
大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ
株式会社内

THIS PAGE BLANK (USPTO)